

英語科学習指導案（略案）

令和元年6月20日（木）第5校時 3年3組（教室）
 指導者：山田 章恵 ・ ALT: Camilla Webber

1. 小野の英語科指導の重点

相手を意識して自分の考えをわかりやすく英語で話し、相手の話を興味をもって聞くことができる。

2. 単元名 Lesson 3 Rakugo Goes Overseas

3. 本時のねらい

大島希巳江さんへのインタビューを読み、「英語落語」に対する希巳江さんの思いを理解することで、「落語」のよさを知ることができる。

4. 展開

	生徒	JTE	ALT
めあてをはっきり	○挨拶をする。 ○先生からの質問に答えて先生と対話をする。 ○生徒同士で対話をする。 ○【B復習型】 「落語」について学んだことを確認する。 ・ One performer tells a story and plays all the characters in it. ・ A <i>sensu</i> and <i>tenugui</i> are used as many things. ○本時のめあてをつかむ。	○英語学習の雰囲気をつくる。 ○生徒や ALT に質問をして対話を始める。 ○生徒が話題にしたものを共有させる。 ○これまでに「落語」について学んだことを思い出させる。 ○これからさらに「落語」のよさを学んでいくことを確認する。 ○大島希巳江さんを紹介する。	○挨拶をして英語学習の雰囲気をつくる。 ○JTE や生徒と対話をする。 ○大島希巳江さんの写真を見て、希巳江さんや英語落語について質問をする。
	〔めあて〕 大島希巳江さんへのインタビューを読み、希巳江さんの思いと「落語」のよさを知ろう。		
課題をじっくり	(1) インタビューを個人で黙読し、全体の構成をつかむ。 ・ はじめのあいさつと自己紹介 ・ 質問と答え ・ おわりのあいさつとお礼 (2) インタビュアーの4つの質問に下線を引く。 (3) 質問の答えにつながるキーワードを丸で囲む。キーワードに関連したカミラ先生の質問に答える。 (4) 班になり、キーワードをつなげて質問の答えにする。	○希巳江さんの思いを考えながら読み、カミラ先生の質問の答えを見つけることを課題とする。 ○個人で考えさせる。 (1) インタビュー全体の構成をつかませる。 (2) インタビュアーの質問をとらえさせる。 (3) 質問の答えにつながるキーワードを見つけさせる。 ○班で協働して考えさせる。 (4) キーワードをつなげて質問の答えをまとめさせる。	○キーワードを見つけるヒントになる質問や、キーワードについて深める質問をする。
	子どもの姿（理解） 大島希巳江さんのインタビューの記事に興味をもって読み、4つの質問とそれぞれに対する答えを把握し、その内容を理解している。（観察・ワークシート・発表）		
まとめをしっかり	○班で考えた答えをクラスで共有して、希巳江さんの思いや「落語」のよさをまとめる。	○班で考えた答えを発表させる。 ○本時で分かったことをまとめさせる。	○本時に分かったことを踏まえて、さらに知りたいことを伝える。
	〔まとめ〕 ・ Kimie-san wanted to share Japanese humor with people all over the world. ・ Some Japanese habits are different from other cultures'. ・ Kimie-san will continue spreading laughter all over the world.		
振り返り	○授業を振り返り、考えたことをまとめる。	○まとめを踏まえて授業を振り返らせる。	○本時のがんばりをほめて次時へつなげる。
	〔振り返り〕 ・ 希巳江さんの、落語で日本のユーモアを世界中の人々と共有したいという思いに共感した。 ・ 落語の中で日本の習慣と外国の文化の違いを伝えなければならない難しさが分かった。 ・ 英語落語を見てそのおもしろさを感じてみたい。		

